



NPO 法人 新エネルギーを すすめる宝塚の会

No.42

2022年12月26日
理事長：橋本成隆
〒665-0022
宝塚市野上1丁目1-8
(Tel: 0797-69-8800)
<https://rept.or.jp>

宝塚市立男女共同参画センター・エル 市民企画支援事業

「これからどうする日本のエネルギー」

～ 再生可能エネルギー利用がすすまないのはなぜ? ～

講師：安田 陽 氏
(やすだ よう)

京都大学大学院経済学研究科 特任教授
宝塚市再生可能エネルギー推進審議会 委員

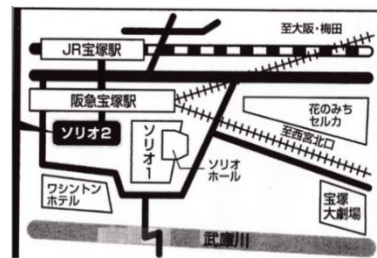


と き：2023年1月22日(日) 14:00～16:00

(開場) オンライン、現地参加共に 13:45～開場

ところ：宝塚市立男女共同参画センター学習交流室
3, 4 & Zoom オンライン

(阪急・JR宝塚下車 ソリオ2 4階)



●参加申し込みは、REPT ホームページの中ほどにある「お知らせ」からお申込み
お願いいたします。(<https://rept.or.jp/>)
右記→の QR コードから直接申し込みページにアクセス可能です。



●オンライン Zoom 参加の場合は上記から申込み頂くと入力頂いたメールアドレスに Zoom 情報を返信いたします。

●新型コロナウイルス感染症の状況等により変更や中止する場合があります。変更や中止の場合は R E P T のホームページでお知らせします。

参加費：無料、予約不要(現地は当日先着 20 名まで参加可能)

連絡先：メール info@rept.or.jp

日本政府は 2022 年 12 月 22 日に GX (グリーントランスフォーメーション) 実行会議にて脱炭素社会の実現に向けた基本方針をまとめました。その中では、原子力を「将来にわたって持続的に活用する」と明記され、2011 年の東日本大震災以来原発の新增設・建て替えを「想定しない」としてきた政策を大きく転換する内容になっています。加えて廃止が決まった原子力発電所を建て替え、運転期間も現在の最長 60 年から延長すること。東日本大震災で被害を受けた福島第一原子力発電所の廃

炉計画もたえず、いまだに2万1千人を超える市民の方々が避難されている状況であるのに、あまりに突然の方針転換で国民の意見を取り入れた議論がなされたとは思えません。

将来の日本のエネルギー施策にとって本当に何が必要なのか？そんな素朴な疑問を考える機会として、宝塚市の再生可能エネルギー推進審議会の委員で、京都大大学院 特任教授の安田 陽(やすだ よう) 博士(工学)を招いた勉強会を企画しました。

日本のエネルギー事情の現状を踏まえつつ、なぜ再生可能エネルギーの利用がすすまないのか？私たちの宝塚でもできることは何か？日本のエネルギーの問題は何か？を一緒に考えましょう。

安田先生のインタビュー記事「あおられる電力危機」(2022年10月29日付け朝日新聞)で紹介された先生のコメントの一部を紹介します。

- 停電対策のようなリスクマネジメントで一番やってはいけないのは、目の前に迫る危機に場当たり対応し、より大きなリスクを抱えてしまうこと
- 岸田政権は、原発新型炉を開発推進する理由として脱炭素化をあげているが、脱炭素化対策は待たなしの課題なのに、技術的に不確かで開発に十数年要する新型炉は間に合わずリスクが増すだけ
- 電力の安定供給と脱炭素化の両立させる国際的に主流な対策は、優先順位の高い電源は再生可能エネルギーとし、出力変動には火力発電だけでなく揚水発電、熱エネルギーへの転換・貯蔵、広域の送電線網による組み合わせ
- リスク対策含めて政策を立案し推進する上では、まず数字で議論する。決め打ちではなく複数のプランを考え最適な物を選ぶ。実行してみて必要なら修正する。という科学的方法論を固めることが肝心

(橋本成隆)



◆ 宝塚市 ふれあいトークについて ◆

2022年10月23日(日)に、宝塚市立男女共同参画センター学習交流室で「ふれあいトーク」を開催しました。宝塚市からは環境室の古南室長と山崎氏に参加頂き、宝塚市の再生可能エネルギー普及に向けた宝塚市の取組みの説明と参加頂いた市民との意見交換をしています。

まず、説明のあった宝塚市の取組みで主な内容を下記に紹介します。

1. 【概要版】第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(改定案)について

- 施策についてパブリックコメントを予定(2022年12月6日~2023年1月4日)
- 温暖化効果ガスの排出量は2012年以降減少傾向が続いている
- 総排出量の内訳では民生家庭が37%と最も多く宝塚市の特徴
- 目標達成の為に下記5つの柱を示して推進中

- 柱1 地球温暖化対策を推進するための基盤の構築
- 柱2 エコなライフスタイル・事業活動の実現
- 柱3 地域環境の整備・向上
- 柱4 再生可能エネルギーの利用の推進
- 柱5 環境への負荷を低減する循環型社会の形成

<取組みの一例>

庁内関係組織自身での省エネ、CO2 排出量削減の状況を可視化し共有することで施策促進につなげている。

- こういった国が推進する施策では比較的予算や大型補助金を獲得しやすい面もあるので、宝塚市としても積極的に推進していきたい。

2. 【概要版】第 2 次宝塚エネルギー2050 ビジョン_について

- 2019 年度では各項目で進捗がみられる
 - 電力 家庭部門/自給率 2019 年度 4.2% (2018 年度 4.0%)
 - 電力 家庭・業務・産業部門/活用率 2019 年度 14.1% (2018 年度 13.0%)

➤ チャレンジ 30 目標

家庭部門の再エネ自給率拡大には下記 5 つの目標を設定

- ① 集合住宅で 200 件（新規）の太陽光発電を導入
- ② 太陽光発電・蓄電池セットで 1,000 件（新規）導入
- ③ ZEH を 1,000 件（新規）建設
- ④ 3 万人（累積）の市民がエネルギープロシューマーズ化
- ⑤ 集合住宅で 10 件（新規）の ZEH-M

3. 【兵庫県環境政策課】北摂里山地域循環共生圏（木質バイオマス活用）実証事業住民説明会

- 宝塚市西谷（玉瀬地区）の住人に実証事業内容を説明。特に反対なし
- 北摂里山地域循環共生圏の目指す姿として木質バイオマス有効利用事業モデルを検証中

4. たからっ子エコライフノート

- 2022 年 5 月に逆瀬台小学校に配布し活用
- 全市での本格的な活用は次年度以降

5. 太陽光パネル、蓄電池共同購入の案内

2022 年 9 月末時点で約 400 件の参加登録があり。近隣他市の人口当たりの件数を比べると多く宝塚市民の関心の高さを感じる

6. チラシ_再エネ・省エネ等脱炭素化設備導入支援助成金

申請多数あり。2022 年 9 月末時点で想定していた予算をほぼ消化。

その後の意見交換でなされた質疑について下記に紹介します。

Q：宝塚市役所内で、地エネ課以外からも CO2 排出量削減の施策推進に協力はえられているのか？目標達成には地エネ課以外の協力も必要と思われるが縦割りで他部課は無関心では？
A：協力はえられている。環境部の部長も危機感をもっており他部門にも働きかけている。庁内各組織の省エネ、CO2 排出量削減にむけた取り組み情報の発信もしている。次年度の省エネ、CO2 排出量削減目標は各組織でも設定されている
Q：第 2 次宝塚エネルギー2050 ビジョンの、電力 家庭部門/自給率 2019 年度 4.2%、電力 家庭・業務・産業部門/活用率 2019 年度 14.1% という状況は進捗がおそいのでは？とても 2030 年中間目標達成できるとは思えない
A：確かに 2018 年度と比較しても進捗は少ない。色々施策を推進しているが市民に認知されていないと思われる。普及啓蒙活動の強化が必要。一方、太陽光パネル等の共同購入案内では、2022 年 9 月末時点で約 400 件の参加登録があり。近隣他市の人口当たりの件数を比べると宝塚市の申し込み件数は多く比較的に関心が高いとも言える
Q：地エネ課があるのに、なぜ第 2 次宝塚エネルギー2050 ビジョンの目標達成度に進捗がない？予算の問題？予算があれば進捗する？
A：予算があっても市民や事業者の具体的な行動が必須なため、やはり市民への啓発活動が必要と思われる
Q：第 2 次宝塚エネルギー2050 ビジョンの目標が高すぎてすくんでしまっている状況では？ソーラーシェアリング設備への固定資産税課税の特例措置が廃止になり、再エネ活用の調査事業（市内の乳牛糞尿の活用したバイオガス発電の調査等）がいくつか実施されたが、調査後の進捗が見えない。積極的な再エネ推進活動ができていないのでは？
A：目標が高すぎてすくんでしまっているということではない。調査後の進捗がないのはご認識の通り。ただ事業化するには宝塚市だけではなく事業者によるところも多く個別に判断することになる

Q：2030年に達成すべき目標から逆算して必要な施策の検討、予算の立案や関係者を巻き込んだ体制づくりをしている？
A：していない。実施している施策は予算や現体制で現実的にできる施策を実施している
Q：宝塚市の取り組みや市民の成功事例、再エネ活用事例が一般市民には見えていないように思える
A：YouTube やInstagram等のソーシャルメディアの活用をはじめているのでそれらを活用して情報発信していきたい (関連した意見交換) ソーシャルメディアの活用に加えて、リアルな交流のあるセミナーや集いを促すカフェの開催も検討したい。REPT も協働したい
Q：公用車のプラグインハイブリッド車化が半数ではなく半数なのはなぜ？プラグインハイブリッドではなくEV車でないのはなぜ？
A：予算上設置可能な充電設備の関係で半数が対象。将来的にはEV化も検討されると思われる
Q：地エネ課の体制は？
A：3、5人 (関連した意見交換) 3、5人ではできることも限りがあるので優先順位をつけて効果のある政策から推進する必要あり
Q：省エネ、再エネ活用施策推進には関係者のメリットを明確にし、インセンティブを働かせる必要があるのでは？例えば、廃止になったソーラーシェアリング設備への固定資産税課税の特例措置も、固定資産税の減免は当初だけで中長期には宝塚市の税収増につながる宝塚市にもメリットのある施策。そのメリットの説明が不十分だったのでは？
A：確かにこの特例措置が議員の理解を得られず廃止になったのは残念。今後同様な施策説明時にはインセンティブの働くようなメリットの説明も十分行いたい

このふれあいトークの冒頭に、古南室長から第2次宝塚エネルギー2050ビジョンの進捗状況、取り組みについて紹介がありました。当初から高い目標設定をしているだけに実績とのギャップは大きく、そのギャップを埋めるべく環境室地域エネルギー課の限られたメンバーでできうる施策を一つ一つ推進中とのこと。私達市民も再生可能エネルギー利用目標の達成に向けて出来ることをあきらめずにすすめていくしかない、と改めて思った次第です。

(橋本成隆)



◆ ソーラーシェアリング収穫祭で体験するメガソーラー ~千葉県匝瑳市~ ◆

11月20日、千葉県匝瑳市で行われた「ソラシェア収穫祭」に、ソーラーシェアリング推進連盟理事としてお手伝いに行ってきました。千葉といえば、私たちのソーラーシェアリング市民農園を作るときに視察で訪れた地。ただ、千葉というのはとても広くて、土地勘のない私にとっては以前訪れたところがどこだったかすら思い出せません。成田空港経由で入った匝瑳市の広大な土地には、明らかに耕作放棄された畑が所々に見られます。江戸の台所、と言われたこの土地にいったい何があったのでしょうか。

収穫祭は畑に囲まれたど真ん中の広場みたいな場所で行われました。この場所も、実は農地。でも何も植わっていません。聞けば、この地域全体、もともとは山を削って作られたところでした。

80haもの広大な農地はできたものの、そこは山土のかたまり。農作物を作るような土ではありません。そこを長年かけて土づくりをして、水はけの悪さに悩みながら農業を続けてきた人たちがいたのです。削っただけでは平らにはならず、平面の場所はほとんどありません。苦勞して作った作物も乾燥がうまくいかず、土地に見合った品種に育て上げるのに大変な努力をされたそうです。そんな広大な土地に耕作放棄された農地が目立つようになり、ある場所は不法投棄で小山のごとくあらゆるゴミが積まれている状態になったそうです。それが、このたび収穫祭の開かれた「畑の公園」です。不法投棄のごみというものは有害物質も含まれています。取り除くには500万円ほどのお金がかかったと

ということです。そのお金は、周囲に作られたソーラーシェアリングで得た売電益を充てたといいます。普通だったら見てみないふりをするとところを、農地をこのままにしてはおけない、という強い思いで片づけたそうです。自腹を切ってそこまでやるとは…。なかなかできることではありません。農業に取り組む仲間の強い意志を感じました。そして、ごみは取り除いたものの有害物質が溶け込んだ土があり、それを数センチ（広大な土地の数センチはものすごい量です）はぎ取っても農作物を植えるレベルまで持って行けなかったそうです。だから個々の土地は象徴的に使うことにしよう、こうした収穫祭などのお祭りを開き、その都度この土地の意味を考えようと思った、そんなふうに仲間が説明してくれました。

周りを見渡せばとてつもない大きさのソーラーシェアリングに囲まれています。設備の下の農地では「オーガニックでなければならない」という強い思いのもと、大豆や小豆、コメなどが栽培されていました。これが俺の考えるオーガニック、と言い切るのは、市民エネルギーちば代表取締役の東さんです。オーガニック食品の販売を長らくやってきた彼の思いはとてつもない強さで、そしてゆるぎない。ものごとに取り掛かるとき、一番大切なのは「なぜそれをやりたいのか」をどれだけ人に語れるかだと思います。目指すところはどこなのか、そして未来に何を渡したいのか、それが見えないと賛同は得られません。そういった点では、ソーラーシェアリング推進連盟に集うメンバーはとてつもない思いが強いなとあらためて思いました。



日本が発祥のソーラーシェアリングですが、すでに世界のほうがずっと先を進んでいます。研究費もかけ方が違う。これが自分たちにとって有効なもの、と位置付けているからどんどん研究し、実機もたくさん作っています。翻って日本の「将来を考えない」情けない農業政策や、ソーラーシェアリングに対する理解度の低さが導入の足かせになってしまっています。こういったことについてどうすればよいのかを推進連盟ではいつも議論しています。

(宝塚すみれ発電 井上保子)



◆宝塚市地域エネルギー課 パブリックコメントの実施について◆

当ニュースのふれあいトークの記事でも紹介した、第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（改定案）と、第2次宝塚エネルギー2050ビジョン（改定案）についてパブリックコメントによる意見募集が行われています。募集期間は2022年12月6日～2023年1月4日です。年末年始ではありますが、下記宝塚市のホームページを確認頂き、是非ご意見を発信ください。

<宝塚市ホームページ>

「第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（改定案）、第2次宝塚エネルギー2050ビジョン（改定案）についてのパブリック・コメントを実施します」

<https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/kankyo/1011303/1016356/1047425.html>

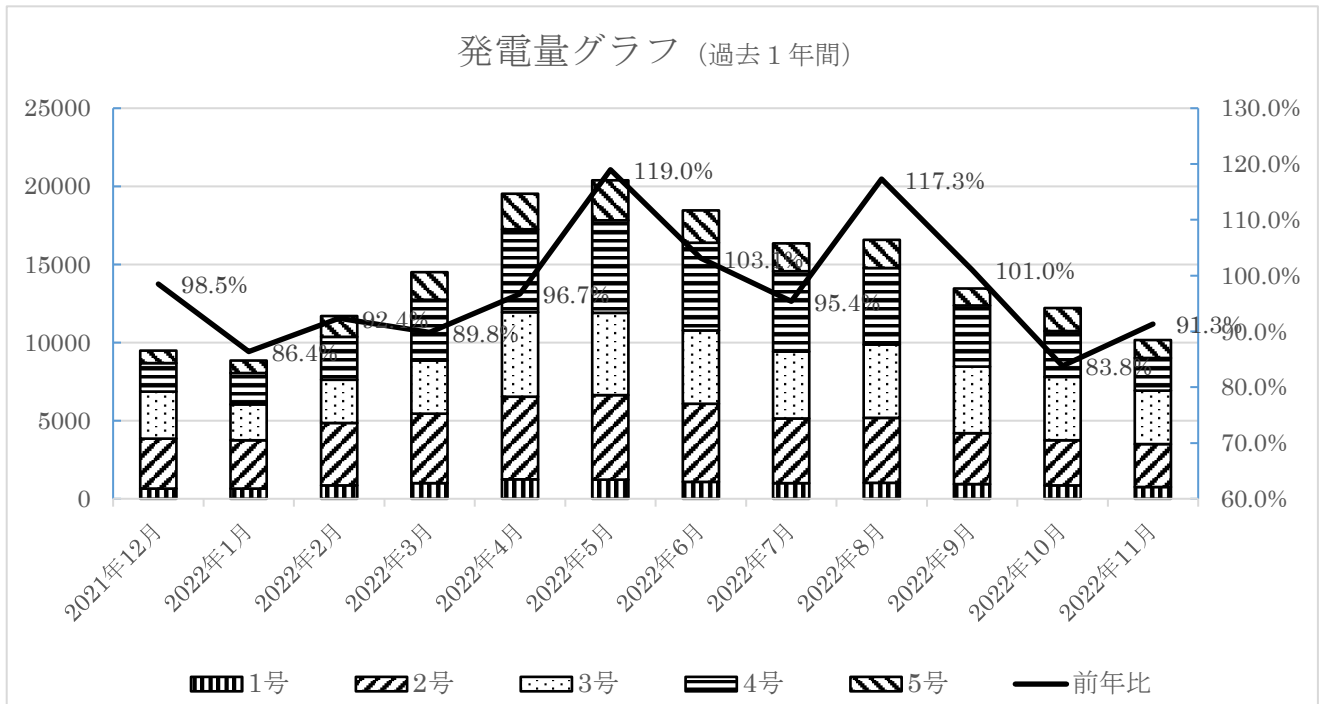
(橋本成隆)



◆ 発電グラフ (2022年11月末日時点) ◆

全体的に好調に稼働しています。

昨年比を見ると2022年10月、11月の発電量が少し低下しており、状況確認中です。



最新の詳しい発電情報は、宝塚すみれ発電のホームページ (<https://sumire.bona.jp/> / 左記 QR コード) にアクセス頂き、上部メニューの「発電所情報」からご確認いただけます。

(井上 正弘)



お知らせ

●兵庫県地球温暖化防止活動推進員主催の講演会、環境活動家 谷口たかひさ氏

テーマ:『気候変動の実態と、いま、私たちにできること』

登壇者: 環境活動家 谷口たかひさ氏

- ◆ドイツ在住の環境活動家&実業家
- ◆2021年1国1還:総会 (UNGA) 司会&スピーチ
- ◆気候危機/自己肯定感を講演 (年515回)
- ◆「地球を守ろう」代表

開催日時: 2023年1月15日(日) 13:30~15:30

開催地: 宝塚市男女共同参画センター ソリオ2 学習交流室

定員: 先着50名 (要お申込み、参加費無料)

お問い合わせ先: takarazuka.suishinin@gmail.com

<申し込み: 下記 URL もしくは右側 QR コード参照ください>
<https://forms.gle/PLnTQRnwb6Tti4wq7>



●宝塚市再生可能エネルギー推進審議会

2023年2月3日(金) 9:30~11:30 @宝塚市役所

●お願い ニュースの返送が増えています。お引越し先や送付停止のご連絡をお願いします。

また、長い間会費未納の方へのニュース送付を停止させていただきますこと、ご了承ください。